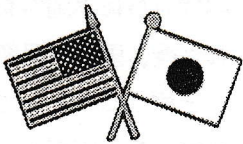


28 JUL 1999



第8号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒107-0052 港区赤坂8-4-17

赤坂郵便局私書箱 62号

編集：JAAGA 事務局

印刷：(財) 防衛弘済会

第4回 総会・懇親会開催

三代目会長に石塚勲元空幕長を選出

講演は「中東における航空監視活動」



ex-President of JAAGA, Gen.
Suguki (Ret.)

去る6月24日午後、グランドヒル市ヶ谷において、日米エアフォース友好協会の第4回

総会・講演会及び懇親会が開催された。

総会は、出席者43名、委任状提出者142名で、会員総数249名の2/3以上の参加を得て総会が成立し、計画に従い議事が進められていった。総会の冒頭、去る5月急逝された故宅見会員のご冥福を祈って黙祷を捧げた。

次いで、鈴木会長から「会の発足から3年、会員諸氏のご支援をバックに常務理事の皆さんの献身的なご努力、これらによって会はここまで立派に成長してくることが出来たと思っております。あらためて心から感謝申し上げます。『意中人在り』という言葉がございますが、まさに意中の人、石塚君に後を託すというこの幸せも噛み締めております。石塚君を核心に、JAAGAが力強い足取りを続けていってくれることを心から祈っております。本当に有難うございました。」との挨拶があった後、規約に従い鈴木会長が議長を務め、別掲の1号から6号までの議案の審議に入った。

平成10年度事業報告及び決算報告を、利渉、江藤両常務理事が夫々行い、小田監事から会計監査結果の異常無き旨の報告が行われ、拍手をもっ

て何れも承認された。引き続き平成11年度事業計画案、同予算案の報告が行われ、これらも何れも承認された。

次に、石川理事長から副会長を2人から3人へ、又新たに副理事長1名を設ける旨の会則改正に関する議案説明と提案があり、提案どおり承認された。

最後に、新役員を選出に移り、第6号議案の通り石塚新会長のもとで新たな体制が承認された。これに基づき、村木新理事長による新役員の紹介が行われた後、石塚新会長が就任の挨拶（別掲）を行い、以上をもって総会は終了した。

次いで会場を移して、第5空軍第605情報隊長ベアティー大佐を講師に迎え、約70名の聴衆を前に、午後4時から講演会が催された。（講演要旨、別掲）

引き続き午後6時から会場を「瑠璃の間」に移して懇親会が催された。懇親会は、正会員及び法人賛



Reception at the Grand Hill Ichigaya

助会員合わせて約 80 名及び招待者約 50 名、合計約 130 名の参加を得て行われた。招待者として、久間元防衛庁長官をはじめ、田村、依田、月原各国会議員の方々、平岡航空幕僚長、岡本統幕事務局長はじめ多数の現役の方々、並びに鈴木つばさ会会長、岡部日米ネービー友好協会会長、そして横田基地から第 5 空軍兼在日米軍司令官ホール中将以下約 20 名の米国軍人等、多数の要人の参加を得て極めて盛大に懇親会が行われた。会は日米両国歌吹奏の後、石塚新会長挨拶、そして J A A G A 発足時から深い

関わりをもってこられたホール中将並びに平岡空幕長が、来賓として祝辞を述べられた後、国会議員紹介、乾杯、祝電披露と続き懇談へと移った。そして相互に友好を深め、或いは新たな絆を結ぶ等極めて有意義な場となった懇親会であったが、時の流れを惜しみつつ午後 7 時 40 分盛会のうちに閉会となった。

以上をもって、J A A G A 第 4 回総会・講演会・懇親会の一連の行事は滞り無く全て終了した。

石塚新会長就任挨拶



New President of JAAGA,
Gen. Ishizuka (Ret.)

皆さん今日は。
J A A G A 創設の 1996 年は、日米安全保障共同宣言が発出された年であり、日米防衛協力の指針見直しが開始された年でした。そして本年

5 月 24 日には周辺事態安全確保法等日米安保の実効性を確保するための重要法案が成立いたしました。この 3 年間 J A A G A は、在日米空軍と日米防衛協力に関わる航空自衛隊の応援団としての活動を着実且つ活発に展開し、米空軍からも高い評価を得て参りました。これは日米関係の重要性に関する会員皆様の深い御理解と、理事として活躍して来られた皆様のボランティア精神の発露によるものと深く感謝申し上げる次第であります。

特に J A A G A の立ち上げから基盤作り、そしてこれまでの運営に指導力を発揮され、率先して汗を流されて今回その職を辞された鈴木会長、松村・長谷川両副会長及び二宮、石川（武）、若江各理事の御功績は長く J A A G A の歴史に刻まれるものであ

ります。まことにご苦労様でございました。心から御礼申し上げ、今後とも宜しく御指導下さるようお願い申し上げます。

日米防衛協力のフレームワークが一応整備されたとは言え、今後の問題は何と言っても実効性です。益々流動性を増す国際情勢の中にあつて、日米間にも当然いろいろな紆余曲折があることでしょう。しかしながら、何が起きても、ミリタリー・トゥ・ミリタリーの揺るぎのない信頼関係が、日米安保の根幹を支え続け、実効性確保上重要な役割を果たして行く事でありましょう。J A A G A の存在意義は益々高まっていくものと思われま

す。J A A G A は、在日米空軍と航空自衛隊が夫々の重要な役割を、国民のより深い理解の下で、士気高く、一層円滑に果たして行けるよう、日米両エアフォースの現役の皆さんと密接に連携を保ち、夫々が必要とするが自らは動きにくい分野を見逃すことなく、応援団としての役割をしっかりと果たして参りたいと存じます。

今後とも会員の皆様のご指導・ご鞭撻そしてご支援を宜しくお願い申し上げて、挨拶とさせていただきます。

第1号議案

平成10年度事業報告書

第1. 事業実績の概要及び会勢の現状

- (1) 平成10年度は、協会発足後2年間の実績を基に事業を堅実に推進し、「米軍基地等の研修」事業を除き、計画した事業を概ね達成できた。
- (2) 平成11年3月末現在の会員数は、個人会員256名(賛助会員7名を含む。)、法人会員36法人であり、順調に会勢を拡張しつつある。

第2. 友好親善事業の実施状況

- (1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等
 コープ・ノースの激励
 10. 7. 31 (那覇基地)
 11. 2. 19 (築城基地)
 11. 2. 26 (春日基地、新田原基地)
- (2) 米空軍隊員の激励・慰問
 10. 6. 8 O S W (Operation Southern Watch)
 派遣航空団(35及び18航空団)司令宛、
 激励メッセージを送付
 10. 8. 1 嘉手納基地O S W派遣隊帰還慰労会に
 会員出席し慰労
 11. 2. 20 嘉手納基地O N W (Operation Northern
 Watch) 派遣隊帰還慰労会に会長出席
 し慰労
- (3) 米軍基地等の研修
 嘉手納・那覇基地研修を横田基地研修に変更(11
 年度1/四半期に延期して実施する)
- (4) 米空軍要人等の講演
 10. 6. 17 講師：杉山前統合幕僚会議議長
 演題：「日米共同の現状と見通し」
 参加者約80名
 10. 11. 24 講師：ホール中将(在日米軍司令官)
 演題：「日米安保の見通し」
 参加者約100名
 10. 2. 22 講師：ポールデン少将(在日米軍副司
 令官)
 演題：「宇宙への挑戦」
 参加者約130名
- (5) S P O R T E X
 10. 9. 23 多摩ヒルズ 参加者118名
- (6) 在空自米空軍幹部等支援
 10. 9. 21 N C O Exchange Program に支援金
 交付
 11. 3. 9 在空自米空軍幹部(6部隊等)に物品
 支援
- (7) 日米隊員の表彰等
 10. 6. 17 総会において、米第5空軍司令官特別
 補佐官サールス昌子氏に対し感謝状贈
 呈
 10. 9. 12 横田基地 サムアーウッド大尉以下4
 名に対し優秀隊員表彰
 10. 9. 18 三沢基地 米空軍デビス曹長に対し
 日米空軍の共同と友好に貢献した功績

で表彰

10. 9. 18 三沢基地 空自西濱空曹長以下5名に
 対し米空軍機搭乗員救助の功績で表彰
10. 9. 26 嘉手納基地 米空軍ビゴルニア シニ
 ア・エアマンに対し優秀隊員表彰
- (8) 指揮官交代行事等への参加
 10. 6. 2 第5空軍副司令官送別会(GH市ヶ谷)
 約30名参加
 10. 7. 31 第18航空団司令送別会(嘉手納)副会
 長出席
 10. 8. 12 横田基地司令送別会(私学会館)
 約30名参加
 10. 11. 7 三沢基地司令送別会(三沢)に副会長
 出席
 10. 11. 13 三沢基地司令の交代式(三沢)に会長
 出席
- (9) 米軍安保等に関する広報活動
 該当者なし。
- (10) 空自・米空軍との意見交換
 横田(10. 4. 14)、嘉手納(10. 6. 26)、三沢(10.
 9. 13)各米軍基地司令と意見交換を実施
- (11) その他
 米空軍記念日行事(エアフォース・ボウル)等に
 会長等出席

第3. 一般運営事業の実施状況

- (1) 会勢の維持・拡大(10年度末現在、()内は9年
 度末)
 正 会 員 249名(222名)
 個人賛助会員 7名(12名、内11名は会則改
 正により正会員へ移動)
 法人賛助会員 36法人(36社)計292名・法人
 (270名・法人)
- (2) 会員名簿の作成・配布
 10. 7. 31 本冊発行、全会員に送付、10.11.30
 追録版発行、全会員に送付
- (3) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・
 配布
 5号(10. 7. 28)、6号(10. 12. 8)、7号(11. 3.
 31)の3回発行
- (4) 一般広報
 会員募集と連携して実施
- (5) 将来の将来方向の検討
 理事会及び常務理事会において適宜検討
- (6) 会則の改正
 第3回総会において「協会をつばさ会の附属組織
 とすること」及び「会員区分の変更(空自OB賛助
 会員を正会員とする。)」について、会則の改正が議
 決された。
- (7) 総会及び懇親会
 10. 6. 17 第3回総会 グランドヒル市ヶ谷、参
 加者：総会等約80名、懇親等約80名、

- 懇親会約 120 名
- (8) 理事会及び常務理事会
 理 事 会：4 回（5/20、9/4、12/7、3/30）、
 常務理事会：7 回（4/21、6/9、7/15、10/5、
 11/10、1/18、2/15）

- (9) 監査
 11. 4. 13 平成 10 年度収支決算監査実施
- (10) その他
 10. 10. 9 協会の支援者（松本壽正氏、小沢孝志氏）に感謝状贈呈

第 2 号議案

平成 10 年度収支決算報告書

(平成 10. 4. 1 ~ 11. 3. 31)

(単位：円)

収 入		支 出	
前年度繰越金	1,939,049	支 出	
収 入		激 励 慰 問 費	103,974
年 会 費	3,502,835	共 同 訓 練 激 励 費	223,609
寄 付 金	50,000	研 修 助 成 費	0
利 息	437	式 典 行 事 参 加 費	117,570
雑 収 入	0	交 歓 親 善 行 事 費	1,412,277
計	3,553,272	総 会 費	218,083
		会 報 広 報 費	990,878
		名 簿 関 係 費	64,683
		会 則 関 係 費	10,500
		入 会 活 動 費	23,490
		支 部 設 立 準 備 費	0
		会 議 費	10,206
		事 務 費	58,412
		通 信 費	17,554
		旅 費	0
		雑 費	37,338
		予 備 費	0
		計	3,288,574
		翌年度繰越金	2,203,747
合 計	5,492,321	合 計	5,492,321

第 3 号議案

平成 11 年度事業計画書

1. 平成 11 年度事業運営方針

- (1) 航空自衛隊と在日米空軍の相互理解、友好・親善に寄与できる事業を実施する。
- (2) 募集広報を積極的に推進して会勢の拡大を図り、協会の基盤を強化する。
- (3) あらゆる機会を活用して協会設立の趣旨を P R し、協会の活動について各層に広く理解を求める。
- (4) 協会の将来の方向について引き続き検討する。

2. 実施事業の概要

- (1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等
 訪 問 先：訓練のため米空軍が展開する空自基地
 （千歳・三沢、築城・新田原・春日、入間・府中）
 時 期：日米共同訓練実施時
 実施事項：訓練参加隊員の激励・慰問
- (2) 米空軍隊員の激励・慰問
 訪 問 先：三沢、嘉手納
 時 期：国連平和維持活動等に在日米空軍部隊

が派遣される場合

- 実施事項：激励・慰問
- (3) 日米共同の行事等に対する協力
 - (4) 空自及び米軍基地等の研修
 - ア 横田基地研修（10 年度事業の延期分）
 時 期：1 / 四半期
 - イ 嘉手納・那覇・横田又は三沢・横田基地研修
 時 期：4 / 半期
 実施事項：装備品、基地施設、周辺史跡等々の研修、懇談・激励等
 参 加 者：約 30 名（賛助会員主体）
 - ウ 米軍施設等の研修
 時 期：適宜
 参 加 者：正会員主体
 - (5) 日米要人等の講演
 講 師：米空軍、在日米大使館、防衛庁等の要人
 時 期：1 / 四半期（総会実施時）、3 / 四半期
 場 所：都内（GH市ヶ谷）

- 参加者：正会員及び賛助会員
- (6) SPORTEX
 時期：3／四半期
 場所：多摩ヒルズ
 参加者：正会員及び空自・米空軍隊員
- (7) 在空自米空軍幹部等支援
 実施事項：空自基地派遣米空軍隊員の活動等の支援
 対象：①在空自米空軍幹部（4基地）
 ②NCOプログラムに参加する米空軍隊員
- (8) 日米隊員の表彰
 対象基地：三沢、横田、嘉手納
 表彰人員：各基地1組
 時期：関連行事実施時
- (9) 指揮官交代行事等への参加及び来日した米空軍関係者の接遇
 対象基地：三沢、横田、嘉手納、都内
 時期：都度
- (10) 日米安保等に関する広報活動
 実施事項：安全保障に関する講演の講師派遣
 対象：部外
 時期：都度（各基地からの要請による。）
 場所：要請のあった基地又はその周辺
- (11) 在日米空軍各基地との連携の強化
 対象基地：三沢、横田、嘉手納
 表彰人員：各基地との緊密な調整、広報資料の提

- 供等
 時期：都度
- (12) 会勢の維持・拡大
 実施事項：PR（面談、対話、パンフレット配布等）及び入会案内
 実施概要：①退官時期に合わせて案内状を送付
 ②法人賛助会員及び個人賛助会員の拡大
- (13) 会員名簿の作成・配布
 発行回数：本冊1回、追録版1回
 時期：本冊（7月）、追録版（11月）
- (14) 会報「だより」の発行・配布
 発行回数：3回（7月、11月、3月）
- (15) 一般広報
 実施時期：関係広報誌等への投稿、情報の提供等
 時期：都度
- (16) 協会の将来方向の検討
- (17) 総会及び懇親会
 日時：11. 6. 24（木）
 場所：GH市ヶ谷
 参加者：総会；会員約70名、懇親会；会員約70名、招待者約20名
- (18) 理事会等
 理事会：四半期毎に1回
 常務理事会：理事会を開催しない月毎に1回
 監査：4月（前年度予算及び決算の監査）

第4号議案

平成10年度収支予算

科 目		11年度予算	備 考
前年度繰越金		2,203,747	
収 入	年会費	3,570,000	個人賛助会員 252名 法人会員 35社
	寄付金	0	
	利息	5,000	
	雑収入	0	
	計	3,575,000	
支 出	友好親善事業	100,000	三沢、嘉手納
	共同訓練激励費	520,000	千歳・三沢・横田・府中・春日・新田原
	研修助成費	360,000	嘉手納研修
	式典行事参加費	150,000	日米隊員表彰
	交歓親善行事費	875,000	講演会、スポーツ交流、在空自米空軍幹部等支援
	一般運営事業	220,000	総会、懇親会助成
	会報広報費	805,000	会報3回発刊
	名簿関係費	100,000	1回発刊、追録版発刊
	会則関係費	10,000	改正分発刊
	入会活動費	65,000	
	支部設立準備費	0	
	管理事務	40,000	理事会、常務理事会
	事務費	105,000	事務用品
通信費	40,000	各種連絡	
旅費	75,000	業務出張	
雑費	100,000		
予備費	300,000		
計	3,865,000		
翌年度繰越金		1,913,747	

第5号議案

会則の改正

第6条（役員及び役員選任）関連

役員	員数
会長	1人
副会長	2人
理事	40人以内
監事	2人
理事長	1人
常務理事	35人以内



役員	員数
会長	1人
副会長	3人
理事	40人以内
監事	2人
理事長	1人
副理事長	1人
常務理事	35人以内

第6号議案

平成11年度J A A G A 役員

職名等	氏名（敬称略）	
会長 (1)	石塚 勲	
副会長 (3)	石川吉夫、横澤彰夫、増元栄和	
監事 (2)	石母田 治、大橋武郎	
理事長 (1)	村木鴻二	
副理事長 (1)	江藤兵部	
常務理事 (21)	総務 (4)	山本壽之、後藤龍一、川田哲雄、細川 佑
	企画 (3)	吉川武秀、坂本祐信、桑原武彦
	渉外 (2)	笠井健介、大谷廣利
	会員 (6)	村木裕世、工藤公光、武智哲作、壺岐紘記、細 稔
	広報 (4)	田中伸昌、村田博生、横幕 功、篠原輝弘
	財務 (2)	荒蒔義彦、横山俊夫
理事 (9)	白井治郎、松井滋明、小田康夫、利渉弘章、菅原 淳 中村雅嘉、新谷 浩、高橋伸治、齋藤嘉夫	
新顧問 (3)	鈴木昭雄、松村嘉夫、長谷川孝一	
退任 (3)	二宮隆弘、石川 武、若江東美男	

総会記念講演

中東における 航空監視活動

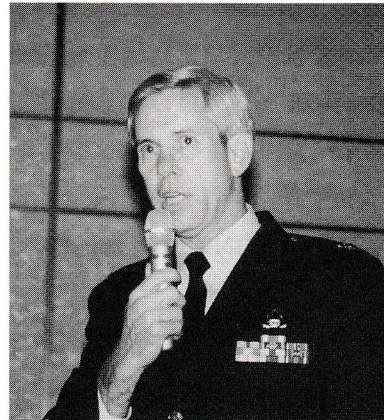
総会に続いて、第5空軍第605情報隊長による講演会が催された。ベアティー空軍大佐は1997年8月から本年3月まで、第5空軍情報部長として勤務し、その後組織改編により現職となられ、引き続き横田基地で勤務されています。その間、1998年10月27日から約5ヶ月半、イラクの国連安保理決議履行状況を監視するための作戦、ONW (Operation Northern Watch) に従事するためトルコに派遣され、情報部長としての職務を全うされて本年4月14日に原隊復帰されました。今回の講演はONW参加の経験を踏まえて、トルコの地政学的な考察に始まり、国連安保理決議、ONWの作戦目的、任務、組織、装備、作戦概要、作戦の成果等、高度の政戦略的なテーマから作戦の戦技、戦法等の緻密なテーマに至るまでの広範な内容につき、約1時間40分にわたって熱弁を振るい聴衆は熱心に聞き入った。講演終了後、石塚新会長から謝辞を述べると共に九谷焼の壺が記念品として贈呈された。講演の要旨は、以下のとおり。

1 中東の重要性

第2次大戦以降、紛争の80%はトルコのインサリク (Incirlik AB) からF-15の戦闘行動範囲内でおきている。そしてバグーと言う町はオイル資源の要点である。即ち、トルコが世界戦略上の要地であること及び米-トルコ間の長期にわたる友好関係を維持すること。これが米国の駐留をしようとした理由である。

2 作戦の背景

湾岸戦争の後、1991年3月、イラクの南部でシーア派が反乱を起こし、これに呼応して北部でクルド



Cmdr. 605 Intel. SQ Col. Beaty

人が反乱を始めた。これらに対しイラク政府は反乱を鎮圧しようとし、クルド人と対決した。また難民問題も発生した。そこで、1991年4月、クルド内のKDP (Kurdish Democratic Party) のリーダーであるビゾニー (Barzani) は国際的な支援を要請した。そこでクルド人を保護する形でUNSCR688 (国連安保理決議688号) が成立発効した。

UNSCR 688の中心は、北のクルドと南のシーアに対する人道的立場からの物質の支援と人権の擁護であった。

3 OPC (Operation Provide Comfort)

1991年4月北部イラクにMCC (Mobility Control Center) が設置され、人道的支援を中心とした物資等の救援活動が始まった。4万回を超える飛行、70万人を超す移動、70~80%の村落の修復等を行い、1991年7月第1段階は終了した。

引き続き第2段階、いわゆる保護、体制確保へと移行し、1995年10月ようやく人道的救援活動は国連に引き継がれた。この作戦は1996年の秋まで続けられることになる。

4 ONW (Operation Northern Watch)

1996年2月MCCはトルコ国内に移されたが、北部クルド人のKDP、PUK (Patriotic Union of Kurdistan) グループで紛争があり作戦は変更された。

OPC では人道的支援の食糧、物資等の支援であったが、ONW では飛行禁止空域の確保は同じであるが大量破壊兵器（WMD）の製造禁止を求めた UNSCR 687 へ監視の重点が移行した。

5 UNSCR 687 とONW の基本任務

UNSCR 687 の項目は

- ①無条件で化学、生物兵器を廃絶すること。
- ②射程 150km以上の弾道弾の製造、保有禁止
- ③核兵器およびサブシステム等の開発、研究の禁止
- ④クエートに対する補償と諸外国への債務の返済
- ⑤テロリズムの放棄

であった。そして、ONWの基本任務はイラクの制空権を確保しながら

- ①イラク政府が国連安保理決議を履行するよう、又湾岸戦争の停戦協定を遵守するように圧力をかけること。

（1991年3月イラクは戦闘機をイラク上空で飛行させないことに同意している。）

- ②サダム・フセイン政権の封じ込め（石油輸出禁止等）であった。

6 CTF (Combined Task Force) の編成組織

ONWにおける編成組織は米軍、英軍およびトルコ軍からなり指揮系統は各々独立している。作戦は各司令部機構を通じて調整され、計画、実行された。

人員構成は米国が約 1,500 名（内約 8 割空軍）、英国が約 200 名、そして、トルコが約 40 名であり、トルコ軍は主としてホストネーションサポートと攻撃に対する承認業務を実施した。また米軍の内、陸軍は約 90 名であるが、これはトルコの要請により、北部イラクから報復のため発射されるスカッドミサイルを防御するためのペトリオット部隊として配置された。

7 兵員のローテーション

編成兵員の交替は各派遣部隊の区分、スタッフ等によって 14 日

から 180 日の間隔でバラバラで頻繁に実施されたため、オリエンテーションや申し送りの為に時間を要し大変苦勞をした。

8 居住環境等

将校は木の壁の有る部屋に居住し、兵員はテントの中に 5 人ずつで居住した。テントの中は各々仕切りが有り廃品等を拾ってきてソファー、じゅうたん等で勝手に装飾していた。又、教会やウエイトトレーニングルームもテントの中に作られた。

9 作戦機等

F-16CJ、F-16C、F-15C、F-15E がそれぞれ約 6～8 機で CAP（空中戦闘哨戒）と目標攻撃を担当し、EA-6B はジャミング、KC-130 は空中給油、HH-60G ヘリと HC-130 は救難、C-12 は地域輸送を実施した。特に、海軍から参加した EP-3 は電子情報を収集し、AWACS と連携して素晴らしい効果をあげた。英国の JAGUARS は偵察を担当し、VC-10K はこの空中給油を担当した。トルコの F-16、F-4 は一緒に作戦をすることなく、東方で独自の作戦を実施していた。

10 作戦計画

まず、ガイダンス（概要指示）が示され、これに基づきキャンペーンプラン（作戦計画）を作り上げた。この時点まで防空活動のみで航空攻撃目標の設定も無かったので 2～3 ヶ月をかけて目標リストを作り上げた。それから目的、管制、タイミング等の詳細を含んだマスターアタックプランを作成し、作戦命令（ATO/FLOW PLAN）を発令した。



Audience of the Lecture

作戦実施後は偵察部隊等に成果を確認させ、これを分析して次の新しい任務・目標等を決定した。

11 作戦の概要

目標を設定しても、これらをすぐに攻撃するものではなかった。例えば、SAMサイトの情報をもらっても、飛行禁止空域上空をまず飛行して、射撃を受けた場合のみ、これを攻撃する、防御的な作戦が主であった。

我々は月に18日程度出撃した。まず、AWACSを飛行させレーダー機能が正常なことを確認し、さらに地上のトルコ・レーダーサイトと接続が実施できなければ作戦を行うことは許されなかった。

AWACSが地上と接続できた後、まず、東の方からF-15が飛行禁止空域に侵入しCAPを始め、F-16CJは通常地上SAMサイト等を搜索しながら

ら逐次西に移動を行った。もし、SAMサイト等からのレーダーの放射がありロックオンされればミサイルで攻撃を行った。しかし、イラクはこのミサイル攻撃を恐れてあまりレーダー放射を行わなかった。また、ミサイル、高射砲、監視、管制サイト等に対しては破壊作戦としてミサイル攻撃や爆撃も一部実施した。

この作戦の間、EA-6Bはジャミングを継続した。空中給油機は北方に待機し、戦闘機は空中給油を受けて作戦を継続した。

AWACSは空中給油機、電子情報収集機(EP-3)、地上サイト、戦闘機さらには人工衛星とも連結して指揮統制を実施した。

もし、F-16が地上から攻撃を受けても、指揮所(CAOC)から許可を得るまでは攻撃はできなかった。

編集者注；ベアティー大佐は、ONW (Operation Northern Watch) を実施するCTF (Combined Task Force) 司令部の情報部長として作戦に従事した経験をもとに、作戦の細部にわたる内容も含め講話をされたが、ONWは現在も作戦遂行中であること、及び作戦の機微にわたる部分については紙面上での公表は避けることとするため、該当部分を除外し且つ要点を抽出して記述するに止めた。



Col. Beaty gives a lecture on "ONW"

空自、グアムで初の日米共同訓練

新しい1ページにJ A A G Aも激励金で支援



Briefing, Cope North GUAM '99

昭和 53 年から始まった空自と米軍との日米共同訓練に新しい 1 ページが開かれた。累積 186 回目に当たる空自の今年度第 1 回日米共同訓練は、米国グアム島アンダーセン空軍基地及び同周辺空域を舞台として、格段に広く、恵まれた訓練環境をフルに活用する形で行われた。

初めての派米訓練のチャンスに恵まれ実施部隊となった 7 空団の F-15 要撃戦闘機や、警戒航空隊の E-2C 早期警戒機が、訓練制限に縛られた日頃のウップンを晴らさんとばかりに思う存分にその性能を発揮して、戦技能力の向上や空地に亘る日米共同対処能力の向上に多大の成果を収めた他、日米の部隊が期間中 24 時間起居を共にし、信頼感の醸成や日米友好の実を上げた。

戦闘機の性能向上に伴う空域の狭隘化や電子戦訓練環境の制約等で日本国内では得難い環境下での訓練に、参加部隊の指揮官や隊員の士気は弥が上にも揚がり、マキシマム・パフォーマンスが発揮できるとあって、この日ばかりは日頃使わないフル・アフターバーナーを炊いて、南洋の青空に一直線に翔け昇って行った。地上では、日米の整備員等がその雄姿を力強く見守っている。航空燃料、整備支援機材、空港業務等の A C S A の実行性も確認され、日米共同訓練はここグアムにおいて大きく一步前進したようだ。

訓練は、6 月 12 日から 29 日までを派遣期間として、日米共同訓練は、21 日から 25 日まで行われた。

心配された台風の発生もなく、連日好天に恵まれて計画を 100%達成し、29 日に全部隊が撤収を完了、大きな足跡をグアムに残した。

空自は、今回の日米共同訓練の実施に当たっては、米側から非常に暖かい協力支援を得て、順調且つ多大に訓練の成果を上げることが出来たとし、今後、本訓練によって得られた成果を踏まえて、空自任務遂行の資としたいとしている。(写真提供：朝雲新聞社)

訓練の概要は、次のとおり。



1 訓練実施部隊

(1) 航空自衛隊 At the apron of Andersen AB

航空総隊 (第 7 航空団、警戒航空隊)

(2) アメリカ合衆国軍隊

第 5 空軍 (第 18 航空団)

2 演練項目

防空戦闘訓練、
戦闘機戦闘訓練及び再発進準備訓練



USAF, JASDF F-15's

3 使用航空機

(1) 航空自衛隊

F-15×6 機、E-2C×2 機

(2) アメリカ合衆国軍隊

F-15×6 機、E-3B×1 機

4 運航経路

(1) 航空自衛隊

百里基地～硫黄島～アンダーセン空軍基地

(2) アメリカ合衆国軍隊

嘉手納基地～アンダーセン空軍基地

5 その他

訓練支援部隊として、航空支援集団の C-130H が展開・撤収等を支援した。



JASDF E-2C

10年度日米共同訓練実施状況

空自機延 1,880 機、米軍機延 1,190 機が参加
J A A G A も 4 基で激励・慰問

航空自衛隊と米軍による平成 10 年度の日米共同訓練は、航空幕僚監部の発表によると、航空自衛隊延べ 1,880 機、米軍延べ 1,190 機が参加し、実動訓練においては、防空戦闘訓練を 4 回、戦闘機戦闘訓練を 3 回、救難訓練及び再発進準備訓練をそれぞれ 1 回実施した。

指揮所演習は、米国アラスカ州エレンドルフ空軍基地において、日米共同指揮所演習を実施した。その他に、統合幕僚会議の計画による日米共同統合実動演習に参加した。また、小規模日米共同訓練を、計 35 回実施した。

日米共同訓練は、日米部隊相互間の連携要領の演練及び戦技能力の向上を図る上で必須の訓練として確実に定着している。またこれらの訓練を通じて日米部隊間の信頼感の醸成及び一層の友好の促進が図られている。J A A G A もその趣旨に沿い、友好親善事業の一環として、4 基地に代表を派遣し、共同訓練実施中の参加隊員を激励・慰問した。

1 訓練別実施概要

* 第 1 回 (10 年 7 月) 防空戦闘訓練、戦闘機戦闘訓練、救難訓練

参加航空機：空自延 60 機、米軍延約 70 機

使用基地 (空自)：那覇

J A A G A 激励・慰問：那覇基地 (松村副会長)

* 第 2 回 (10 年 10 月) 航空総隊総合演習時に実施、防空戦闘訓練、戦闘機戦闘訓練

参加航空機：空自延 680 機、米軍延約 40 機

使用基地 (空自)：千歳、三沢、小松、百里、松島

* 第 3 回 (11 年 2 月) 防空戦闘訓練、戦闘機戦闘訓練、再発進準備訓練

参加航空機：空自延 460 機、米軍延約 230 機

使用基地 (空自)：築城、新田原、春日

J A A G A 激励・慰問：築城基地 (橋本会員)、新田原基地 (大橋理事)、春日基地 (中野会員)

* 第 4 回 (11 年 2 月) 防空戦闘訓練

参加航空機：空自延 100 機、米軍延約 30 機

使用基地 (空自)：三沢、千歳、襟裳

2 小規模日米共同訓練実施回数

北空 (19 回)、中空 (0 回)、西空 (9 回)、南混 (7 回)

3 日米共同指揮所演習 (10 年 7 月～8 月)

エレンドルフ米空軍基地

4 日米共同統合実動演習への参加

統合幕僚会議の計画 (10 年 11 月) 防空戦闘訓練、戦闘機戦闘訓練

参加航空機：空自延 580 機、米軍延約 820 機

使用基地 (空自)：千歳、三沢、小松、小牧

注：統合幕僚会議の計画であるため、空自の日米共同訓練としては実施回数に含めない。

5 主な成果

(1) 防空戦闘訓練では、組織的な戦闘要領を演練し、共同運動能力の向上を図った。

(2) 米軍が保有する戦闘機と異機種対戦闘機戦闘訓練を実施し、操縦者の戦技能力の向上を図ると共に、貴重な教訓を得ることが出来た。

(3) 救難訓練では、救難活動に係わる部隊間の連携要領を演練した。

(4) 再発進準備訓練では、航空機の点検等の再発進準備に係わる連携要領を演練した。

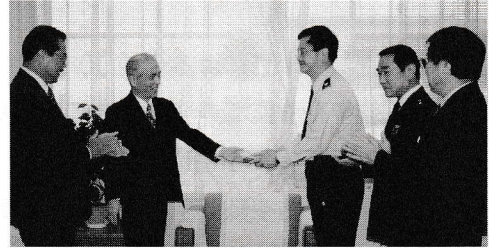
(5) 日米共同指揮所演習では、指揮所活動に係わる連携要領を演練した。

日米幹部の相互派遣

在空自米空軍幹部への支援

航空自衛隊と米空軍は相互の能力向上と、日米相互の友好と絆を強化するため相互教官等を派遣している。JAAGAは航空自衛隊の部隊等において教育等に励まれている在空自空軍幹部の一助として物品を貸与し、その活動を支援することとした。

このため、『(貸与物品の)業務処理要領』を定めると共に、各在空自米空軍幹部の希望を聴取し、夫々物品を取得し、本年3月、6名(1名辞退)に対して下記の物品の貸与を実施した。



Good-will Supports to USAF Exchange Officers in JASDF

部 隊	米 軍 幹 部 名	希 望 品 目
幹 部 学 校	中佐 Albert K. Uehara	デジタルカメラ (CAMEDIA一式)
第 5 航 空 団	大尉 Arthur W. Anderson	オートディスク、マイクロソフト
第 1 術 科 学 校	少佐 Stuart A. Lum	Microsoft Office'97 日本語版
第 4 術 科 学 校	大尉 Todd M. Sasaki	DVD-RAM ドライブ
第 5 術 科 学 校	大尉 Scott D. Burnside	MOドライブ
航空医学実験隊	中佐 Andrew Tong	漢字辞書メモ、医学技術情報誌
飛行開発実験団	少佐 Michael J. Cribbs	辞退

以下は各在空自米空軍幹部からの礼状である。

(幹部学校 アルバート・ウエハラ 中佐)



去年の9月に目黒の航空自衛隊幹部学校に来た米空軍のウエハラ中佐です。着任以来、職場の皆さんから温かいサポートをいただき、色々とお世話になっております。JAAGAからも米空軍の交換幹部に対し、いつも寛大なサポートをいただき、大変感謝しています。

今回、デジタルカメラを貸与していただき有難うございます。ブリーフィングとスクラップブックを作成するのに役に立つと思います。教育用だけでなく、幹部学校の各種研修、学生の卒業式、国際セミナー等の行事などで、使うチャンスが今後たくさんあると思います。さらに日本の美しい季節や風景も忘れないように記録する事ができます。アメリカへ帰ってからも、撮った写真を見て、日本人の親切さと優しさがいつまでも心に残ると思います。米空軍の交換幹部へのお心遣い、どうもありがとうございます。

(第5航空団 アーサー・アンダーソン (案打尊) 大尉)



日米エアフォース友好協会の皆様には日米交換幹部である私のためにソフトを購入していただき、有り難うございました。日米交換幹部にとって、日本語は大変難しいので、「マイクロソフト小学館ブックシェルフ」というソフトは仕事の為の勉強や英語弁論大会のスピーチの翻訳等に役に立ち、助かります。またF-15機種転換課程の学生にフライトブリーフィングする為に、コンピューターを使って、ビジュアルなブリーフィングガイドを作りましたが、学生が理解しやすい図表の作成は容易ではありません。しかし、購入

Capt. Anderson

していただいたソフト「テクニカルドキュメント・デザインツール・AutoSketch」を使用すれば、もっと詳しく、分かりやすいブリーフィングガイドが作れると思います。私の任務がより効率的になることだけでなく、交換幹部が日米エアフォース友好協会からこのような御支援をいただくことで、日米友好の組織が益々強くなると思います。

エアフォースの一員として、又は新田原基地にいる日米交換幹部として、心から御礼を申し上げます。

(第1術科学校 スチュアート・ラム 少佐)



Maj. Lum

私は、皆様からの御支援に心からの感謝の意を表します。

浜松基地、第1術科学校の米空軍交換幹部として、私が現在自衛隊の名誉ある教官として自衛官と共に勤務できるのは自衛隊の隊員の皆様と同様にJAAGAの皆様のご理解とご支援の賜であると考えています。

航空自衛隊で勤務することにより、私は楽しみながら語学力の向上が図れました。貴会のご尽力に対し感謝するとともに現在の勤務を非常に幸運と感じております。

私は着任以来、学生、同僚、その他大勢の人々から受けた信用及び誠意に答えるべく日々努力しております。

我々の2つの国が共に歩み将来を構築することに、私は自分の持てる能力を発揮して貢献していきたいと思っております。御支援に対し感謝するとともに、今後ともよろしくお願ひします。

今後も航空自衛隊と米空軍の成功と繁栄が続くことを祈っております。

(第5術科学校 スコット・バーンサイド 大尉)



Capt. Burnside

JAAGAの皆様、光磁気ディスク(MO)を贈って頂き大変ありがとうございました。JAAGAの寛大さと米空軍交換幹部へのたゆまないご支援は協同と友好の証だと思ひます。

小牧基地にある第5術科学校の教官として学生に教育を実施する時、表示用のパワーポイント・プログラムを使用します。というのは、説明に使用する資料やグラフは大きな量になり通常のフロッピー・ディスクに記憶するには大き過ぎるからです。今までは、説明資料をフロッピー・ディスクに記憶できなかつたので、他の基地に行くときはOHPを準備して実施しなければなりませんでした。今は、JAAGAに贈って頂いた光磁気ディスクを利用して説明資料を記憶し、パワーポイントを使って、日本国内の何処でもブリーフィングを実施することができます。

先週、航空自衛隊の当別で教育のため北海道に行きました。ブリーフィング資料をフロッピー・ディスクに記憶できないため、60枚以上のOHPを準備しなければいけなかつたところですが、北海道に出発する前日、JAAGAからの光磁気ディスクを受け取りました。この光磁気ディスクを使って簡単に教育資料を収録することが出来、約70名の航空自衛隊の人々にパワーポイントを使ってブリーフィングを実施することができました。当別でのブリーフィングが大変巧くいったことに対しJAAGAに感謝します。そしてまた、1枚のディスクは60枚のOHPに比べれば極めて重量が少なく、私の荷物は普段より大変軽かつたです。有難うございます。

所 感 文

今回は平成9年9月から研究開発部門の幹部として飛行開発実験団（岐阜）で勤務しているマイケル・J・クリブス少佐の所感文を紹介します。

航空自衛隊飛行開発実験団における生活について

1. 勤務について

私は研究開発部門の交換幹部で岐阜基地にある飛行開発実験団で勤務しています。私の第一任務は課程学生等に対して米軍における最新の航空機等の試験計画技法ならびにデータ収集及び評価方法を教えることです。その中で、特に私が力を入れているのが Test Pilot 課程（TPC）及び技術幹部課程（TOC）学生に対して、最新の米空軍の取得システムのプロセスと取得計画を教育することです。他の任務としては、米軍における最新の研究開発事情や軍事英語の教育がありますが、飛行開発実験団司令の特命事項によりさまざまな飛行試験のオブザーバーとして参加することもしています。

先に述べた TPC と TOC の課程学生に対する米空軍の取得システムの教育では、詳しく紹介するために F-22 の取得例をサンプルとして用いています。最新戦闘機である F-22 を使うことにより、学生は興味を持って聞いています。また、他の教育課目として、テストプログラムや仕様書の課目がありますが、これにも F-22 の例を用いて教育しています。

昨年度は、航空自衛隊にとって大きなプロジェクトである E-767AWACS の飛行試験に参加しました。浜松基地において試験実施要領のアドバイスをしたり、TOやソフトウェアなどに関してアメリカへの連絡、問い合わせ、情報交換など、空自の AWACS 飛行試験プログラムを積極的に支援しました。また、最近では C-130 の新重物料投下器材の飛行試験において、イギリスの交換幹部や AWC を通じて過去の C-130 の飛行試験での不具合事例を調査したり、米空軍の新しい物料投下システムの情報を提供するなど、特に飛行安全の面に関してサポートをしています。

交換幹部として勤務するには、どうしても日本の組織・体制・慣習等の違いからくる障壁を乗り越えなければなりません。特に、航空機技術隊長（高辻 1 佐）と同器材班長（飯盛 3 佐）は円滑に私の業務が遂行できるように多大な支援をしていただきました。

2. 生活について

私の現住所は岐阜県各務原市で、妻の季素実と愛犬のユキと一緒に住んでいます。素実は専業主婦で、日本料理や色々な国の料理をすることを楽しんでしています。ユキは5歳の雌犬で、走ったり泳いだりすることが好きなようです。各務原は私たちにとって大変生活しやすい所です。電車、郵便局、店などの利用方法が韓国のもので随分似ているので迷うことが少ないのです。また、この地域は、都会のような便利さを利用できる一方で、新鮮な空気と綺麗な水にも恵まれています。ただ唯一の問題として挙げられるのは天候です。夏はとて暑く温度が高く、冬は非常に寒いです。

3. 趣味又は娯楽について

私達は知らない土地へ行く旅行が大好きです。在任中には、日本の色々な所や東南アジアの国々に行く機会がたくさん持ました。日本においては高山や金沢などの昔ながらの街並みを見たり、温泉を満喫したり、日本文化に接することができました。また、私は小型機の操縦やスキューバダイビングも趣味なのですが、フライトについては日本に来て以来なかなかチャンスがありませんでした。スキューバダイビングについては、去年の夏ミクロネシアのトラック島に行つて思う存分楽しむことができました。

4. 今後の予定について

今後の転勤先についてはまだ知らされていません。米空軍は最近、転属のシステムを変更しました。現在の航空自衛隊とほぼ同様のものになりました。今年の夏には、私が次にどこに行くのかが決まるのではないかと思います。

5. 在任間で特に印象に残ったこと

それは私達が航空自衛隊と地域の人々から受けた多大な支援です。多くの人々の助けがあってこそ、私達の生活が順調に送ることができたのだと思っています。基地内では、力石3佐、美濃部1尉、上野2尉など多くの方が仕事上だけではなく、色々な質問や頼みに応じてくれて本当に助かりました。また、第4高射群の安田さんの家族はこの各務原での生活に必要な情報を教えてくれたり、様々な日本の家庭料理をご馳走になりました。今回の機会を借りて、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

6. JAAGAが皆さんに支援、協力してあげられるとしたら、どのようなことがあると思われますか？

日本のすべての交換幹部にとって共通の第一任務は教育を実施することです。我々の米空軍情報の最も大きいリソースはインターネット上にあるのですが、残念ながら米空軍アカウントがあるコンピュータに入ることはできません。熊谷の交換幹部のササキ大尉は、すべての交換幹部のために横田基地経由のアクセスを可能にするために働いています。このプロジェクトがJAAGAから継続的にサポートを受けることができれば、私達が勤務するそれぞれの航空自衛隊の部隊において、さらに進んだ教育支援を実施できるものと思います。

Michael J. Cribbs, Major, USAF
Japan Flight Test Exchange Officer



Major Cribbs and his colleague

航空機技術隊器材班長飯盛3佐コメント

クリブス少佐は研究開発における経験・知識もあり、我々が業務を進める上で多大なる支援を頂いております。特に、AWACS実用試験/試験的運用への技術的助言は試験を進める上で大変参考となりました。

時間外においても我々との交流に積極的に参加して頂いております。宴会での料理は寿司を好み、カラオケではパフィーの歌を得意とするなど、しっかり日本文化に溶け込んだようです。

また、基地・飛実団及び各務原市の英会話教室で先生を努め、日本人の英会話能力向上及び自衛隊への周辺住民の理解に大いに貢献しています。



Corporate members of JAAGA Visited Yokota AB, hosted by Lt. Gen. Hall

在日米軍司令官ホール中将のホスピタリティーに一同感激

貴重な体験を通じ在日米軍の理解に大きく寄与

法人会員担当理事 村木裕世

去る5月24日(月)、JAAGA主催による米空軍横田基地研修は、19社31名という多くの法人賛助会員の参加を得て、終始活発且つ盛況裏に行われました。

今回の参加者は各社の枢要な地位にある方々は勿論のこと、特に昭和30年代生まれ以降の各社の若い方々が約7割を占め、米空軍並びに基地に対する正しい認識の醸成に大いに寄与したと思われる。特に米軍基地見学が初めての方が多く、又、在日米軍司令官ホール中将及び米空軍高級幹部の方々と直接会話する機会を持つことができ、終始緊張と感激が表裏一体となり眼を輝かせて居られたことが印象的

であった。

また研修ばかりでなく司令官官舎でのホール中将招待による懇親会で研修者全員が米空軍幹部の方々等と親しく会話、談笑し真摯な姿で友好親善に尽くして居られたことが嬉しく感じられた。特に物怖じしない若い人々の活躍には、21世紀への夢を繋いだ感すらあった。

参加者の内、年長組を代表して川崎重工業株式会社第3防衛航空機部長の鈴木国芳氏に、また年少組を代表して極東貿易株式会社航空宇宙機器部航空機課の花木暁氏、及び同中沢博人氏にご所見を寄せて頂いた。

川崎重工業株式会社
第3防衛航空機部長 鈴村 国芳氏

横田基地は、東京都の福生市、昭島市、瑞穂市、立川市にまたがり日頃防衛庁の3研など近くに行く事がありながら、研修の機会がほとんどありませんでしたので貴重な機会と思い参加させていただきました。

広大な基地（米軍基地の中で7番目の狭さ）の中には、飛行場設備（全体の約7割）の他に高、低層住宅が整然と立ち並び、小・中・高校や大学の分校まであり、隊員とその家族は基地内で十分生活出来る事を感じさせました。又、娯楽施設も充実しておりボーリング場、映画館、野球場、スケートボードを楽しむ広場まで用意されていました。

ホール司令官以下のブリーフィングで基地の任務・機能の懇切丁寧な説明があり、十分に理解する事ができました。特に第5空軍の任務は通常空輸、医療搬送等に加えて日米相互協力の重点が置かれていることに感心しました。

見学させていただいた施設等のうち、特に興味深く感じたのは「輸送システム」です。第374輸送航空団の中の第635機動中隊において捌かれる貨物量は月に数千トンとこのことで実にシステムチックに稼動していました。

この輸送システムは、自動倉庫の考え方を応用したものではないかと推察されますが、436Lバレットに積んだ貨物の宛先・重量などをコンピュータへ登録・管理し、行先別に機体への搭載順等を決め、Kロード（2,500 lb, 40,000 lb, 60,000 lbの3種類ある。）で運搬・搭載を行っているようです。これら一連の自動化された施設に合理性が感じられると共に、地上システムと輸送機との見事なマッチングを体験する事ができました。

今回、基地の中にも大勢の日本人が働いている事が分かり、日米関係の密接なつながりを認識しました。基地のすぐ側にも軍向けの各種店舗が並んでおり、こうした人たちにとっては基地は経済基盤の一部なのであろう、と思いました。

しかし、一方で基地の境界と近隣農家の畑を金網のフェンス一枚が複雑に区切っており、日本の基地の抱える複雑な関係を垣間見る様な気持ちがしました。

見学後、ホール司令官邸で歓迎レセプションがありました。

ホール司令官を始めとする基地の皆様方の心のこもった歓迎に感激しました。

司令官邸は完全なアメリカ家屋であったが、庭は、日本式で灯籠などが飾ってありました。庭の横にはゴルフのショートコースが1ホールだけあり、航空自衛隊の官舎を見慣れた小生にとっては想像を超えるものでした。

司令官の心のこもったスピーチと共に司令官以下の方々の日米相互協力に対するJAAGAへの期待はかなり強いものであると実感し、自分の気持ちが引き締まる思いがしました。日米の一層の協力の下に国際平和と安全に貢献する必要性を痛感しながら迎いのバスに乗り込み基地を後にしました。

最後に横田基地研修の機会をセットし貴重な体験をさせていただいたJAAGA幹事の方々に深く感謝いたします。

極東貿易株式会社
航空宇宙機器部航空機課 花木 暁氏

米軍基地を訪問し、あらためてその規模に驚き、軍としての機能だけではなく、生活の場であり日本の中の一つの街としても存在していることを実感しました。その存在事態には賛否両論ありますが、日

米エアフォース友好協会をはじめとする他の友好団体は今後、その存在意義が一般に理解されるよう努めなくてはならないと思います。

基地におきましては司令部、燃料管理室、レーダー管制室、有事救難体制等を見学致しましたが、日本において同様な業務に日常的に関係している私達は、米軍と自衛隊間の情報交換役として重要な位置にいます。弊社におきましては米空軍が使用している救難、輸送器材と同じものを輸入し販売していますが、その使用方法の大胆さは日本の救急医療・救難体制も見習うことが多いのではないかと感じました。新しい日米防衛指針のもとに有事の際の対応は今後の課題であり、輸入だけでなくそれらの情報・経験も重要な付加価値として正しく伝える役割を担っていく必要があると思います。

極東貿易株式会社

航空宇宙機器部航空機課 中沢 博人氏

協会の方々のご好意によって、米軍司令官、並びに各幹部との対話等、大変貴重な体験をさせていただきました。若い世代が担う役割は何であるのか、今後ますますその答えと具体的な行動の必要性が問われる中、今回の研修は横田基地の現状を少しでも認識する上で、非常に有意義なものでした。

私は、横田基地に住んでいる知人がおり、文化交流面での横田基地の存在の方が大きかったのですが、在日米軍基地中枢としての機能や民間併用問題に関する日米双方の主張などを伺い、今後より身近に現実のこととして意識できると思います。

在日米空軍基地トピックス

第5空軍副司令官が交代

第5空軍副司令官スティーブソン准将送別会

4月30日、グランドヒル市ヶ谷で、JAAGA主催による第5空軍副司令官ローレンス・スティーブソン准将の送別会を行った。

会からは、鈴木会長以下、御夫人4名を含め35名が参加した。航空自衛隊からも空幕教育課長、運用課長、調査課長、情報室長、総隊総務部長の参加を得て賑やかな送別の宴となった。

スティーブソン准将は、昨年2月着任、1年2ヶ月の短い期間であったが、この度、フロリダ州、ハルバートフィールドにある空軍特殊作戦司令部の副司令官へ栄転されることになった。

鈴木会長からは、日米両空軍発展への努力と会への協力を感謝してJAAGAの楯が贈呈された。

この会には、スティーブソン准将夫妻のほか、通訳のハセベ氏と第605航空作戦隊長（改編前の5空軍作戦部長）のブランシェティ大佐夫妻も会の招待により参加した。

また、ブランシェティ大佐は、三沢の第35戦闘航空団の副司令官として5月に異動が予定されており、同大佐に対しても、三沢での今後の活躍と会との変わらぬ交流を願うとともに第5空軍司令部勤務間の労をねぎらった。

スティーブソン准将夫人とブランシェティ大佐夫人のお二人には花束が贈られる等、和やかな送別会であった。

第5空軍副司令官にゴレンス大佐が着任

6月、スティーブソン准将の後任として、スタンレー・ゴレンス大佐が第5空軍副司令官に着任した。

ゴレンス大佐は、1975年に空軍士官学校を卒業し、パイロットトレーニングを受け、F-4E戦術戦闘飛行隊への配置以降、F-15E、F-16等の操縦者として活躍し、教官パイロットを勤めたT-38を含め3100時間以上の飛行経験を有している。

この間、連合王国幕僚大学、国防軍産業大学等に学んでいる。

前任地は、シェパード空軍基地であり、第80飛行訓練航空団司令を勤めていた。

第5空軍司令部改編

第5空軍司令部は、4月1日公式に改編された。第〇空軍と呼ばれるナンバーが付された空軍の幕僚組織の改編であり、空軍主導のもとにより良く統合軍司令官を支援し、戦うために実施されたものである。

新しい組織は、指揮通信についても改善されることになっており、より一層効果的に作戦が実施できるようになる。

新しい組織の鍵となる部分は、司令の隷下に創られた3つの隊、即ち、第605航空情報隊、第605航空作戦隊、第605航空支援隊である。

その目的とするところは、平時から戦時に役立つ機構改編を実施し、平時から有事編成に習熟しておき、有事態勢へのスムーズな移行を可能ならしめることである。

新しい機構には、

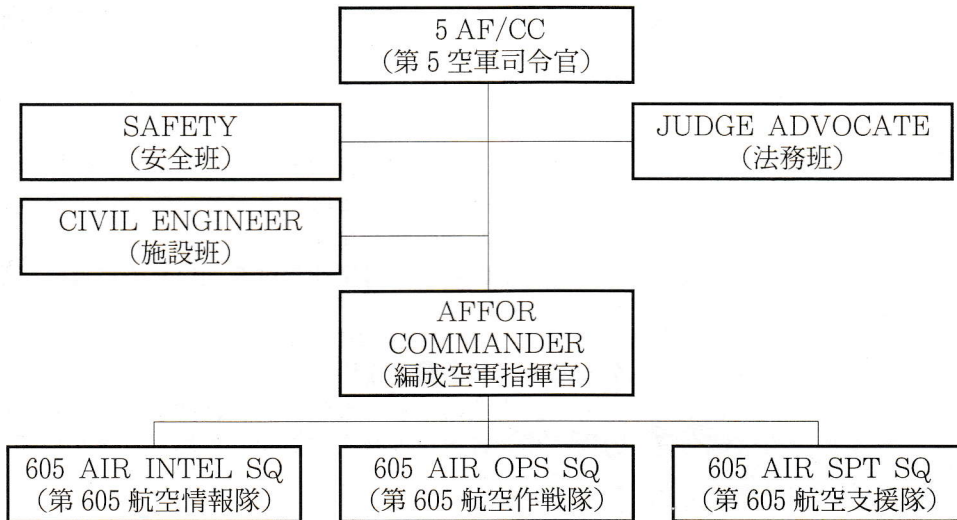
司令部幕僚として、今までどおり安全班、法務班、施設班が組織される。

第605航空情報隊には、元情報部と第605航空情報飛行班を併せ持つことになる。

第605航空作戦隊は、元作戦部と第624空中管制飛行班で編成される。

第605航空支援隊は、元兵站部と広報の一部で編成される。

新しい組織図は次のとおりである。



安全保障に関する日米関係

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備中です。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは？

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は？

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか？

A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。

入会ご希望の方、又は入会を希望される方等をご存知の方は、下記連絡先までご一報下さい。

JAAGA 会員の皆様へ

JAAGA会員の皆様こんにちは、鬱陶しい梅雨空と天候不順の中ながら、それぞれにご活躍のこととご拝察致します。

懸案の「新ガイドライン」関連法案も無事成立し、航空自衛隊創設以来初めての海外における日米共同訓練（コープノースグアム99）も実施される等、日米防衛協力の絆はより強く緊密度を深めつつあることは誠に喜ばしい限りです。

当会も石塚新会長の下で、会設立の趣旨の具現化を目指して大いに活動を活発化すべき時と考えております。

会員相互手を携えて、来たるべき21世紀に向けて更なる前進に努めようではありませんか。

発足4年目を迎えたJAAGAは個人会員の更なる会勢拡大を図っており、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関する御協力、御支援を是非とも宜しくお願い致します。

なお、個人会員につきましては次の通りです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させて戴きます。

正 会 員：航空自衛隊OBで入会した方（年会費5千円）

個人賛助会員：航空自衛隊OB以外の方で、正会員3名の推薦により、理事会の審査を経て入会した方（年会費1万円、当面は東京地区を主対象に募集し、逐次全国にその輪を広げて行くことにしています。）

【連絡先】

「郵便」	〒107-0052	東京都港区赤坂8-4-17	赤坂郵便局私書箱第62号
		日米エアフォース友好協会	会員担当行
「FAX」	03-5323-5555	村木裕世	(横河電機(株))
「電話」	03-5323-5135	同上	
	03-3594-0798	武智哲作	(日本電気(株))
	03-3245-6611	荒蒔義彦	(新明和工業(株))
	03-3219-5638	細 稔	(株)島津製作所

()内は勤務先